

講義名	経営学入門（人間社会学部：1年生のみ）			授業形態	
担当教員	今西 珠美	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング	

主題と概要

主題：経営学の基礎知識と主要理論を広く学びます。
 概要：経営学の取扱対象と学問体系を理解し、研究領域ごとに事例を通じて基礎知識とその領域を代表する理論を学びます。

到達目標

経営学という学問分野とその研究領域を知り、代表的な経営用語を理解、説明できるようになりましょう。

提出課題

随時、課題を提示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業時や解答例を提示する際に講評します。
 RYUKA Portal のレポート提出機能のコメント欄を使用して個別に対応することもあります。

評価の基準

学習成果（理解度）と学習意欲を評価します。
 出欠はとらず、定期試験および提出課題の内容、理解度、取り組む姿勢を評価します。
 定期試験（60％）、提出課題（30％）、学習意欲・学習態度（10％）を予定しています。

履修にあたっての注意・助言他

この学期・履修の受講対象は人間社会学部の1年生です。
 教科書は必須です。教科書に沿って授業を進めますので、授業時には手元にあるようにしてください。
 課題は提出回数だけでなく、内容も重要です。
 課題の作成・提出にも礼儀があります。

教科書	『1からの経営学（第3版）』	加護野忠男・吉村典久編	碩学舎	2640	9784502375217
-----	----------------	-------------	-----	------	---------------

参考図書	なし。				
------	-----	--	--	--	--

その他

伊丹敬之：加護野忠男『ゼミナール 経営学入門（第3版）』日本経済新聞出版、2003年。
 梅川吉郎『イノベーションの歴史—日本の革新的企業家群像』有斐閣、2019年。
 岸田民樹・田中政光『経営学読史』有斐閣（有斐閣アルマ）、2009年。
 沼上裕『シリーズ・ケースで読み解く経営学1』ゼロからの経営戦略。ミネルヴァ書房、2016年。
 東北大学経営学グループケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣（有斐閣ブックス）2019年。
 スチュアート・クレイナー『マネジメントの世紀 1901-2000』東洋経済新報社、2000年。
 『よくわかる現代経営』編集委員会編『よくわかる現代経営 [第6版]』ミネルヴァ書房、2021年。

授業計画

- 1 企業経営の全体像
- 2 経営学の全体像
- 3 企業と会社
- 4 企業とインターネット市場との関わり
- 5 企業とアウトプット市場との関わり
- 6 競争戦略のマネジメント（Part.1）：基本的な考え方
- 7 競争戦略のマネジメント（Part.2）：違いを作る3つの基本戦略と仕組みの競争
- 8 多角化戦略のマネジメント
- 9 国際化のマネジメント
- 10 マクロ組織のマネジメント
- 11 ミクロ組織のマネジメント
- 12 キャリアデザイン
- 13 経営学の広がり（Part.1）：ファミリービジネスのマネジメント
- 14 経営学の広がり（Part.2）：病院組織のマネジメント
- 15 経営学入門総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の予習（約120分）
 教科書の該当章を読んで授業に臨んでください。事前に読む章の番号は授業回と同じです。
 「予習する教科書の章番号」＝「授業回」ということです。
 例えば、第3回に向けた予習では教科書の第3章を読んで授業に備えてください。
 ケースで取り上げられている企業・組織についても調べてください。
 授業の復習（約120分）
 授業でキーワードを提示しますので、各々の内容確認を入念に行ってください。
 さらに、それらの相互関連性を考えることによってその回の授業全体の理解を深めてください。
 その他に記載している参考文献の利用も推奨します。自ら進んで調べ、理解度を高めましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当科目を学ぶことによって、経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できるようになります。組織が直面する経営課題の現状分析を通して、具体的な改善や解決の提案ができるようになります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ポータルのシステムを使って課題の提出や確認を行う予定です。また、授業時間だけでなく、ポータルのレポート提出機能にあるコメント欄も活用して質問や意見を受け付けるなど、コミュニケーションを図っていきたくと思います。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考